

未来を拓く 企業訪問

SDGsの国際目標 2030年まであと5年。地球の持続可能性は企業としても取り組まざるを得ない目標となりました。SDGsには「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」とあるとおり、社会全体が持続可能な未来を目指すためには、地域創生・地方創生が重要な役割を果たします。SDGs達成に向けて、企業が主体的に取り組むことについて、お話を伺いました。

株式会社リバネス

地域開発事業部 副部長 農林水産研究センター長
博士（農学） 宮内 陽介 様



◆主な事業内容

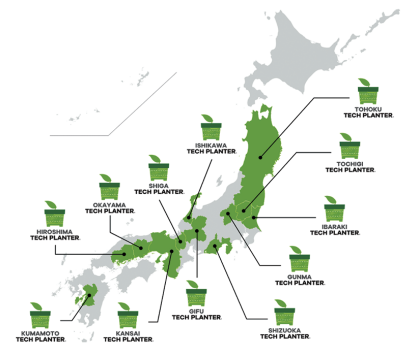
地域開発事業部では「地域の産業を再構築し、新産業を生み出す」をミッションとし、同社の知識プラットフォームを地域課題に活用することで、地域に眠る資源の発掘や新技術の導入支援など、地域の発展に資する事業を行っている。

首都圏ではできない取り組みを地域で仕掛ける

地域の活性化には、東京だけで活動しても地域は盛り上がらない。やはり現地に行って取り組むことが重要である。その一環として、超異分野学会などのフォーラムにて研究者から大企業、スタートアップまで、多様な人々が集まる場を設けている。集まって終わりではなく、お互いの知識や技術を融合させ、そこから新たな事を仕掛けることが大切だと考えている。

地域テックプランターの活動について

地域テックプランターは、地域からベンチャーが継続的に生まれる基盤を創り、新たな地域産業の創出を目的とした取り組みである。各地域で座組は様々であるが、産業創出や次世代育成を通じた地域創生に取り組む自治体・地域銀行・地域中核企業等と連携している。2016年に熊本県から始まった本取り組みは、現在は全国12カ所に広がっており、従来の県単位の枠を超え、関西および東北では県をまたいだ広域型で展開している。地域の大学から発掘した研究者やベンチャーが、シーズ段階からメガベンチャーへと成長するプロセスを、地域中核企業・大学・金融機関及び県外も含めた大企業等と共に支援し、ベンチャーと地域の双方が発展する仕組みづくりを行っている。



コミュニケーションが重要

オンラインは便利だが、やはりリアルでの対話には代えがたい価値がある。実際に会うことで生まれる偶発的な会話や、細かなニュアンスの共有が、深い信頼関係の構築につながっている。ネット上のつながりだけでは難しい仕事も、リアルで言えばスムーズに進むことが多い。特に地域活性化の取り組みでは、現場での直接のやりとりが重要であり、リアルな場が人と人をつなぎ、新たな価値を生み出す基盤となっている。

三重での取り組みについて

三重県でも現在、津の農園と連携し、有機米栽培など水田栽培に特化した場でアグリテックの実証や人材育成を行うプロジェクトを開始した。新技術は現場に取り入れられるまで時間はかかるが、持続可能な農業の発展には技術活用が必要である。今後も三重で大学や企業との連携を進め、活動を広げていきたい。



インタビューの感想

当社も超異分野学会への参加や、地域貢献活動での登壇など、同社の取り組みに共感し、何か一緒にできることはないのだろうかと模索しています。インタビューでは、岐阜での成功事例をたくさん聞かせていただき、地域が一体になって発展的な取り組みを行う必要性を感じました。超異分野学会とは？とご興味のある企業様は、ぜひ足を運ばれてはいかがでしょうか。いつもと異なる交流が生まれるのではないのでしょうか。



セミナーご案内

ISO内部監査員養成セミナー 2025年度開催日程のお知らせ

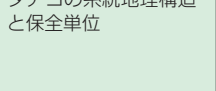
当社で開催のISO内部監査員養成セミナー2025年度日程が下記の通り決定いたしました。独学では難しかったISOが理解できたと好評を頂いております。ぜひご活用下さい。また、各企業様のご希望に合わせた出張セミナーも随時受付しておりますので、お問合わせください。

開催日時（2日間コース） 9:00～17:00	
開催日	2025年 5月22日(木)・23日(金)
	2025年 9月18日(木)・19日(金)
	2025年 11月13日(木)・14日(金)
	2025年 7月17日(木)・18日(金)
参加費用(税別)	1名様につき：36,000円 ※テキスト・資料・昼食・修了証書が含まれます。

会場：東海テクノ 本社 ※詳細は当社ホームページをご確認ください。
<https://www.tokai-techno.co.jp/product-service/hrd-consulting/iso-seminar/>

テクノの横顔 ～社外でも活躍しています～の巻 vol.10

日頃分析や測定技術員としてお世話になっている当社の社員たちですが、社外においても研究発表会等で活躍する場が増えてきており、日常業務の傍ら、研究や資料作成なども行っています。今回は直近の活動例をご紹介します。

メンバー	四日市分析センター サーベイ Gr 長 藤原 靖将	四日市分析センター フィールド Gr 主事 植村 賢二	四日市分析センター フィールド Gr 技師 野口 亮太
内容	アスベスト分析ラウンドロビンテスト委員会の発足に参画 (2025.1)	日本作業環境測定協会学術大会にてパネリストとして登壇 (2024.10)	論文発表：魚類学術誌 DOI:10.11369/jji.24-016
	国内分析者のスキル向上と、分析機関の品質管理体制の強化を目指し、取り組んでいる	日本作業環境測定協会学術大会 	東海地方におけるヤリタナゴの系統地理構造と保全単位 

社員プチコラム

鈴木 琢矢（環境事業部 四日市フィールドGr）

私の休日はフットサルの試合や練習で過ごす事が多かったのですが、最近では2児の父となり、趣味の時間より家族と過ごす時間が自然と増えています。そのため、家の中での趣味を新たに探したく、場所をあまり広く使わない豆盆栽を始めようとしています。もみじを発芽させたく現在は種まき適期末で冬を体験してもらっております。初心者の方には最初からもみじは難易度が高いようで、盆栽等詳しい方が居られましたらお話頂けると嬉しいです。写真のように綺麗に咲けばいいなと思います。



編集後記

今月より報告書表紙を紙より再生プラスチックのクリアファイルに変更しました。完全にリサイクルを目指していますので、不要な方は営業員までお戻しください。そんな取り組みは後日お伝えいたします。また先月のプレゼント企画の正解は③ 正解率は17%でした。正解者の方、抽選で数名の方を含み、商品を近日中に発送いたします。ご参加ありがとうございました。（みっちー）

